

【農林水産委員会における参考人質疑】

1、 全国漁業協同組合連合会 岸宏会長への質疑

漁業法改正にあたり、規制改革推進会議が、これまでの漁協を中心にした取り組みに対して、新たな資本・技術・人・販売力の強化を主張し、漁業権等について漁獲から水産加工、流通まで一貫したシステムに転換することを狙いにした戦略を打ち出してきたことをどう受け止めているか

2、 公選 宮城海区漁業調整委員会 赤間廣志委員への質疑

既存の漁業権を適切・有効に活用している漁協には、優先的に免許されると理解しているが、どう評価しているか

3、 香川海区漁業調整委員会 濱本俊策会長への質疑

漁業権と漁協との関係、調整委員の選任のあり方に関する県行政と漁協との関係について、どのように考えられているか

○山田俊男君

自由民主党の山田俊男であります。

本日は、お三方、本当にお忙しいところありがとうございました。また、大変大事な話をお聞きすることができたこと、こんなふうに思っております。

日本の水産業は、私が十分知らないのに、皆さんの方が圧倒的にもうよく御存じなわけでありますから、かつては漁獲高がそれこそ世界一だというふうに言われたこともあります。今はこれをずっと減らしているわけです。漁船も、そして減らしているわけでありますから、世界各国、これは日本も含めての浜の埋立てみたいなこともありましたから、それから海洋汚染もありますし、さらにまた、過剰漁獲と言っているんですかね、そういうことも一時期やっぱり相当あったのではないかと、こんなふうに思うところであります。

一方、我が国からとると、海洋漁業からの締め出しと言っているんですかね、水産物の輸入自由化もあったわけであります。もちろん世界の漁業資源も減っているということもあるんだというふうに思います。かくのごとく、日本周辺のこの海域におきます、ないしは水域におきます資源の悪化やいろんな課題がずっとこうして出てきていた結果じゃないかというふうに思います。

先ほど来一番心配されていますが、これ、漁業だけじゃなくて農業もそうでありますが、漁業の方がもっと大変なのかなというふうに思いま

すけど、担い手が圧倒的に高齢化して、そして若い就業者も、漁業関係も比較的出てきているよという話はお聞きしたわけでありましてけれども、容易じゃないわけです。

それから、離島、漁村も大変消滅しております。大型漁船も減っております。そして、水産加工の経営体も減少しているということがあるわけですね。まさにこういう動向をどんなふうにちゃんと活性化するか、再生するかというのは、漁業者の関係者の皆さんの最大のそれこそ課題であると、そういう問題意識をお三方からもそれぞれおっしゃっていただいたというふうに思います。

まず、その中で最初にお話しされましたJFグループの岸会長にお尋ねしますが、全漁連といいますかね、JFグループは浜の活力再生プランという形で相当精力的な取組をずっとこの間続けてこられたわけで、私は、この取組を高く評価するわけでありまして。

しかし、こうした状況の中で、御案内のとおり、漁業関係につきましても、一年前と言ったらいいんですかね、一年半前ですかね、突然、規制改革推進会議が、漁協を中心にした取組に対して、新たな資本、技術、人、販売力の強化等を主張して、漁業法や水協法の見直しを言い出してきたということがあるわけでありまして。

このことは、私がずっと仕事をしてきたのは、全国農協中央会で、農協の組織でありました。議員になりましたから、今日の農林水産委員会の多くのメンバー、この中で一緒に仕事したのは三分の二ぐらいの方々になるんですが、それこそ農協法の改正が提起されまして、それこそ大きな大きな政策転換と攻撃を、私から言わせますと様々な攻撃を受けたということがあるわけでありまして。

見ていまして、私は、この漁業法、水協法に対します規制改革会議等周辺の課題提起というのは、どうも農協改革のときの主張とも大変よく似た論調ではないかと、こんな受け止めをしているわけでありまして。浜の漁業者の皆さんがそれこそ大変な努力をされて、そして長年にわたって我が国のこの大事な資源の確保に向けて大変な努力をされてこられたわけで、漁獲から始まって水産加工、それから流通等々についても役割を果たしてこられたんですが、しかし、それを、一本こうして通じた、一気通貫するといいますか、通じたシステムの転換をやっぱり狙ってきているといいますか主張してきているところがあるというふうに思うわけでありまして。

まず岸会長さんにお尋ねしたいんですが、大変な努力を続けてこられましたJFグループの皆さんが、これらの主張を一体どんな形で受け止めておられるのか、そして、それを日本の、まあ私から言うと語弊があるかもしれませんが、やはり漁獲高を落として、高齢化してという、漁

業者も少なくなってきた、場合によったら、これは皆さんの責任じゃないんだけど、浜の状態も環境が悪くなってきているということの中で、いかに日本の水産業を守るか、漁業を守るか、漁業者の取組を守っていくかということが物すごく大事になるわけですが、この点について岸会長は、規制改革の動きなり、それから浜の再生プランの取組も含めまして、どんなふうを受け止めておられるのか、どんな決意で臨もうとされているのか、まずお聞きしたいと思います。

○参考人（岸宏君）

今の山田先生の御質問に対して、今回の水産政策の改革についての私の基本的考え方は、先ほども述べましたように、今、漁業の現状を、このままで本当に将来展望が開けるのか、今よりもっと良い漁業が、漁村が本当に構築できるのかといえ、私は決して現状では難しい、そういうまず基本認識の中で、今回のこういう水産政策の改革、漁業の成長産業化、あるいは漁業者の所得増というものをしっかり捉えて我々自身がまず自己改革をするというのが今回の基本的なスタンスであります。この点につきまして、私は会長になった当時から、今のままでは良くない、しっかり固定観念を捨てて、前向きでみんなが自分の進むべき道しるべをつくらうということで浜プラン作ってきたわけです。

こういう中で今回の規制改革会議の問題提起があったわけですが、私は規制改革会議からは二回ヒアリングを受けました。私からは、国民の皆さんへの漁業者の役割である水産物の安定供給や国境の監視、それからまた漁業者、漁協がこれまで果たしてきた多様な役割や具体的な取組、さらには漁業権制度が漁場利用の秩序維持など沿岸漁業の基盤を担ってきた重要性について御説明もし、お話もしたわけであります。その後、六月に規制改革会議が取りまとめた水産政策の改革につきましては、漁業権制度の果たしている資源管理や漁業をめぐるトラブル回避の役割が認識され、今後とも漁業権制度は維持するということが明記されたわけであります。

したがって、この考え方に基づいて今回の法律改正が行われておるといふふうに承知しておるわけですが、先ほど山田先生もお話のあったとおり、これからやはり漁業者が良くなるためには、先ほど申し上げたとおり、実践するのは漁業者でありますから、国でもない、県でもない、市でもない、私どもがやはり自らがしっかりそういう認識を共有しながら前向きにこれからの漁業の将来展望を開いていく、それが今の私の考え方であり、お答えであります。

○山田俊男君

岸会長の大変な努力、それから決意ですね、この環境の中ですから、大変な御苦勞を受け止めておりながら、しかし大事な漁業者それから漁協の取組をどんなふうにちゃんと守っていくか、発展させていくかということをお聞きしたわけでありまして、どうぞ、いろんな課題があるというふうな思い、まだまだ出てくるというふうな思いますから、それらに本当に全力を挙げて取り組んでいただきたいと、こんなふうな思うところであります。

ところで、赤間さん、濱本さんからかなり厳しいお話で、かつ現場でお仕事されているわけだから、その立場での率直な御意見をいただいた次第であります。

これ、漁業権について、そして、これはしっかりやっている漁協に優先的に免許を与えるんだよということで、法の方向はそれで出しているというふうな思うんですね。これはどんなふうな評価されますか、赤間参考人にお聞きします。

### ○参考人（赤間廣志君）

質問ありがとうございます。

私は、高校を卒業して、それで漁協の青年部活動をずっとやってきまして、直接漁業経営には参画はしていませんが、ただ、やっぱり農業も漁業もつくったものがやはり自分たちの生活に、安心できるような価格で売れば、私はいいんですよ。やっぱり一番の農協、漁協の販売、これはやっぱり生産者の生活できる価格で販売するというのが一番だと思うんですね。

私、ちょうど三十年前に、今でこそ六次化という言葉がありますが、六次化がないときに、三十年前、実は海藻の加工の会社をつくりました。今年で大体三十年になりますが、なぜそのときつくったかという、塩蔵昆布を作ったら、自分たちの生産で合わない価格で、もうなぶり殺しみたいな感じの値段でやっちゃうんですよ、共販でね。

私はこれでは駄目だと。やっぱり何とかして、もちろん自分で原料を買う場合は、やった場合、その扱った分の、販売手数料を乗せた分は漁協に当然納めました。だけど、その値段で生産してもなかなか食べていきません。

そこで、やっぱり、その当時、ちょうど塩釜は揚げかまぼこの産地でありまして、ちょうど昭和五十五年、今でもスーパーにありますけど、おでんセットという製品がちょうど出回った頃で、それには必ず昆布を使用しました、結んでね。しからば、よしと、その昆布を作ろうということで会社立ち上げて、昆布を作って。なかなか漁業者、経営学学んだわけでもない、いろいろ大変でした。

## 農林水産委員会／2018年12月6日

でも、入札で出すよりは、自分で納得した製品作って売るんですから、多少利幅が狭くとも自分で納得しました。

ですから、私はやっぱり漁協、農協というのは、一番は、漁業者、農業者の生産したものをとにかく適正な価格で、まあ適正かということは申しませんが、それと同じような価格で売れば、やっぱり農業者も漁業者も安心します。

それで、宮城県の場合、震災後、漁業後継者がおかげさまで全国で第一位の増加を示しています。それで、うちの会社も私の子息が、長男、三男が私と共に漁業と会社経営を一緒にやっています。

そして、もう一人、水産庁の漁業就業者フェアで高校三年生のときにそれに参加して、どうしても漁師になりたいという若い男の子がいて、それで岩手県の釜石のイカ釣り船に乗りました。

その子は三月生まれで、それで、イカ釣り船に乗ったものの、日本海、能登半島から津軽海峡、釧路、根室沖、三陸沖、皆様御承知のとおり、イカはここ三年、四年、ここに、鈴木さんなんかは詳しいと思いますが、結局は給料も払えないということで、その就職した年の十二月に解雇されて、それでも漁師になりたいという希望を持って、明るる二月のカキ祭りに行って、行けば漁民と会うと……

### ○委員長（堂故茂君）

赤間参考人、大変恐縮ですが、おまとめいただきたいと思います。

### ○参考人（赤間廣志君）

はい、今終わります。

それで、その観点で、私の方に、漁業をしたいということで今働いています。

### ○山田俊男君

濱本参考人にちょっとだけ質問をさせてもらって。すぐ終わりますから。

### ○委員長（堂故茂君）

もう時間が終わっておりますので。

### ○山田俊男君

一言。

濱本さんに質問できなくて大変申し訳ないと思ひまして。オーバーしましたが、ちょっとあります。

## 農林水産委員会／2018年12月6日

濱本さんは県職員をおやりになって、かつ、それから香川区の漁業調整委員もおやりになって、行政の役割と関係団体との連携についてしっかり役割を果たしておられるところへもってきて、知事による選任制はこれはいかぬぞという声をしっかり聞いたわけであります。これをどんなふうに今後対策を取っていくか。しっかり……（発言する者あり）はい、もう終わりますが、どうぞほかの委員の皆さんが後は続けていただいて、どうぞこの大事な話を、よろしくお願ひしたいと思ひます。

終わります。